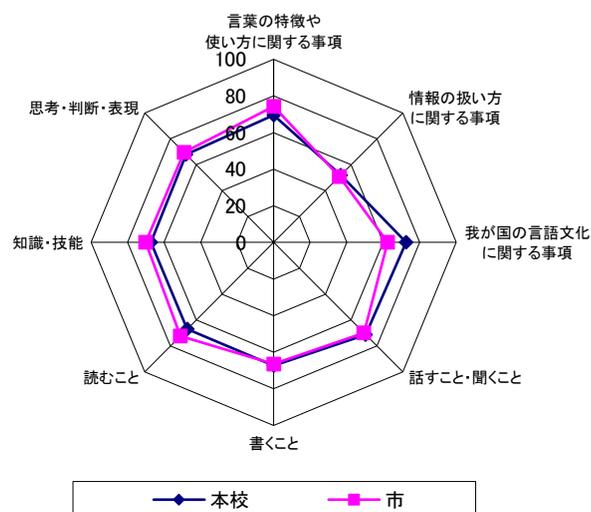


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	69.5	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	52.0	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	72.5	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	71.2	69.9	69.7
	書くこと	67.3	66.4	64.6
	読むこと	67.0	72.3	71.0
観点別	知識・技能	67.2	70.1	70.0
	思考・判断・表現	68.0	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

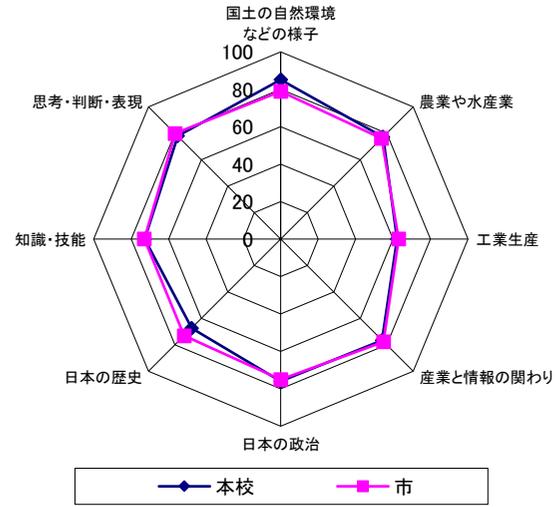
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●「三字の熟語の成り立ちについて理解している。」の設問に関しては、49.0%と市の平均を17.9ポイント下回った。 ●「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。」の設問に関しては、27.5%と市の平均を9.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三字熟語の構成について課題が見られたので、読み書きだけでなく、漢字一字一字の意味も併せて押さえる必要がある。熟語の構成にも慣れさせていきたい。 ・新出漢字だけでなく、既出の漢字についても取り上げた漢字練習及び漢字小テストを行うことで、繰り返し指導し、漢字の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。」の設問に関しては、80.4%と市の平均を5.2ポイント上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。」の設問に関しては、23.5%と市の平均を3.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報の関係を読み取ることに課題がある。同一の内容を扱っている複数の文章や、文章の内容に関係のあるグラフ・表を見比べるという経験を積ませる。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○「漢字の由来について理解している。」の設問に関しては、72.5%と市の平均を10.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの漢字でも、意味を表す部分と音を表す部分からなる漢字について理解を深める。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話している」の設問に関しては、29.4%と市の平均を4.0ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を捉え、互いの立場や意図を明確にしながらか司会進行をすることはよく理解しているので、実践でも生かしていきたい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「グラフから読み取った事実を書いている。」の設問に関しては、86.3%と市の平均を7.9ポイント上回った。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。」の設問に関しては、72.5%と市の平均を3.3ポイント上回った。 ●「表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。」の設問に関しては、84.3%と市の平均を6.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に付け加えるグラフや表を選ぶ学習に課題がある。資料の内容をよく理解させ、それに適したものを選択する力を育てたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「文章全体の構成を捉えている。」の設問に関しては、33.3%と市の平均を19.9ポイント下回った。 ●「登場人物の行動について描写を基に捉えている。」の設問に関しては、72.5%と市の平均を11.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や朝の読書タイムを活用し、物語だけでなく説明文や図鑑への関心を高めるための手立てをする。 ・文学教材については、繰り返し読むことで、直接的な言葉では描写されていない部分からも想像力を働かせて心情を読み取ることができるよう、読解の指導を進める。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	85.1	78.9	75.4
	農業や水産業	77.1	76.1	71.2
	工業生産	62.1	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	76.5	77.6	59.7
	日本の政治	76.0	75.0	79.3
	日本の歴史	67.4	73.1	72.8
観点別	知識・技能	72.7	73.0	71.4
	思考・判断・表現	77.9	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

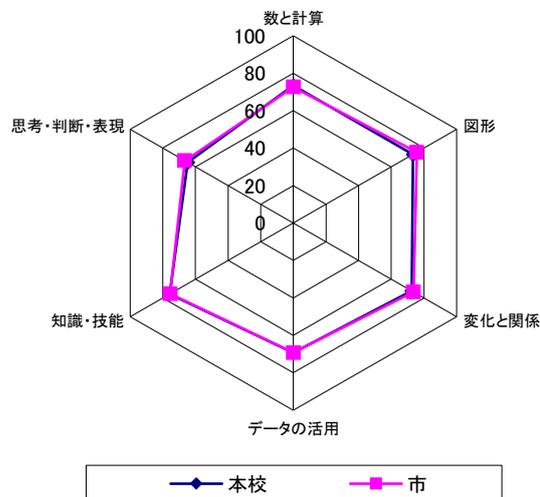
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○「日本の周辺の海洋名について理解している。」の設問に関しては、正答率96.1%で市の平均より8.8ポイント上回った。</p> <p>○「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている。」の設問に関しては、60.8%で市の平均より11.1ポイント上回った。</p> <p>○「天然林と人工林について理解している。」の設問に関しては、78.4%で市の平均よりも8.8ポイント上回った。</p>	<p>・日本周辺の海洋名や日本の主な地形の名称、位置について理解できているので、引き続き地図帳やデジタル教材を活用し、理解を深められるようにする。</p> <p>・天然林や人工林について理解できているので、森林の働きや環境を守ることの大切さについて考え自分の言葉で表現できるようにする。</p>
農業や水産業	<p>○「都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめている。」の設問に関しては、66.7%で、5.0ポイント上回った。</p>	<p>・米づくりのさかんな地域について都道府県の位置を理解できていない児童や無回答の児童が見られたので、都道府県など既習事項を確認しながら、資料から読み取ったことを白地図上にまとめる活動を多く取り入れるようにする。</p>
工業生産	<p>○「自動車工業の作業工程について理解している。」の設問に関しては、市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>○「大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っている。」の設問に関しては、市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>●「日本の鉱山資源の輸入について、資料を読み取っている。」の設問に関しては、58.8%で市の平均よりも6.3ポイント下回った。</p>	<p>・日本の主な貿易相手国や貿易品について日常生活と結び付けながら理解を深めるとともに、「日本とつながりの深い国々」の学習等で再確認し定着を図るようにする。</p>
産業と情報の関わり	<p>○「インターネットを利用するときの注意点について理解している。」の設問に関しては、市の平均とほぼ同程度であった。</p> <p>○「資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現している。」の設問に関しては、市の平均とほぼ同程度であった。</p>	<p>・一つの資料を正確に読み取れるようにするとともに、複数の資料を比較したり結び付けたりして、自分の考えを表現する活動を取り入れる。</p>
日本の政治	<p>○「日本国憲法の三原則について理解している。」の設問に関しては、72.5%で市の平均よりも3.1ポイント上回った。</p> <p>○「非核三原則について理解している。」の設問に関しては、86.3%で市の平均よりも6.4ポイント上回った。</p> <p>●「裁判の仕組みについて資料を読み取っている。」の設問に関しては、76.5%で市の平均よりも3.1ポイント下回った。</p>	<p>・国会の仕組みについて理解できていない児童がみられたので、映像資料や模擬国会などを効果的に活用して、政治に興味関心をもたせ、理解の定着を図れるようにする。</p>
日本の歴史	<p>○「飛鳥時代の出来事を理解している。」の設問に関しては、66.7%で市の平均よりも7.9ポイント上回った。</p> <p>●「元寇についての理解を基に、資料を読み取っている。」の設問に関しては、64.7%で市の平均よりも10.5ポイント下回った。</p> <p>●「元寇後の日本について理解している。」の設問に関しては、62.7%で市の平均よりも13.7ポイント下回った。</p> <p>●「武家諸法度について理解している。」の設問に関しては、41.2%で市の平均よりも13.2ポイント下回った。</p>	<p>・調べ学習を多く取り入れた安土桃山時代については、積極的に学習に取り組む児童が多く見られ正答率も高かった。他の時代についても映像資料や調べ学習を通し、興味・関心を高め、積極的に学習に取り組めるようにする。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.5	72.6	73.1
	図形	73.3	75.7	74.7
	変化と関係	72.5	73.6	66.1
	データの活用	69.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	75.8	75.5	74.4
	思考・判断・表現	64.7	66.5	67.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

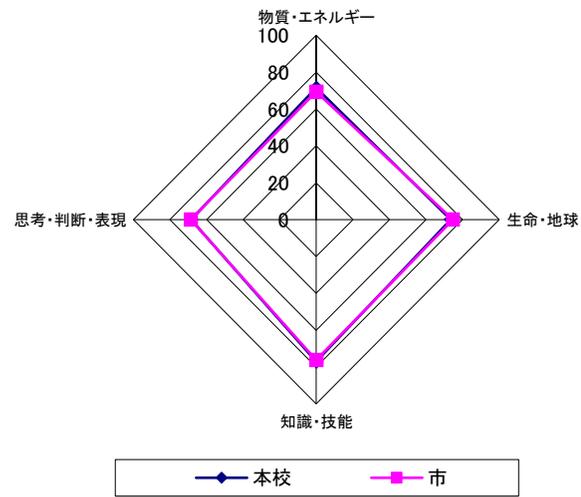
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数×分数、分数÷分数の計算ではどちらも正答率が92.2%で、市の平均を分数×分数では3.9ポイント、分数÷分数では5.9ポイント上回った。 ●分数の足し算では通分の計算が不十分で、正答率が66.7%であり、市の平均を8.2ポイント下回った。 ●割合で代金を求める問題では、正答率が58.8%で、市の平均を5.7ポイント下回った。	・分数の計算では、通分や約分の仕方を指導するとともに、基礎的な問題の習熟を図る。 ・割合では、図をもとにした考えができるよう指導する。何を求めている問題かを理解できるようにするとともに、多くの問題に触れさせて習熟を図る。
図形	○「三角形の内角の和から外角を求める。」の設問に関しては、78.4%の正答率で、市の平均を5.4ポイント上回った。 ○「三角形の展開図から重なる頂点を見つける。」の設問に関しては、正答率が92.2%で市の平均を3.8ポイント上回った。 ●「高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める。」の設問に関しては正答率が64.7%で、市の平均を3.9ポイント下回った。 ●「合同な三角形を作図する。」の設問に関しては正答率が80.4%で、市の平均を6.1ポイント下回った。	・三角形の作図では、コンパスとものさしを使って描く描き方を指導し、基本的な図形の描き方を理解させるようにする。 ・平行四辺形などの面積を求める問題では、底辺と高さの関係を見つけて公式に当てはめていく指導を行い、習熟を図る。
変化と関係	○「割合のグラフの見方で、半分が何パーセントかを理解する。」の設問に関しては、正答率が92.2%で、市の平均とほぼ同程度であった。 ●「単位量あたりの大きさ・速さを求める。」の設問に関しては、公園の混み具合を求める問題で正答率が70.6%で、市の平均と同程度であった。	・割合では「くらべる数」と「もとにする数」を絵や図を使って認識させ、正しい立式ができるよう指導する。
データの活用	○「ドットプロットから最頻値を読み取る。」の設問に関しては正答率が90.2%で、市の平均を6.9ポイント上回った。 ●「データを読み取って考察する内容を選ぶ。」の設問に関しては、正答率が31.4%で市の平均を1.6ポイント上回っているものの、3割程度の理解にとどまっている。	・データの活用では、最頻値、中央値、平均値などの用語が出てくるので、言葉の意味を正しく理解させるとともに、実際のデータを取り上げながら、問題に取り組めるようにする。 ・記述された分析の文章の内容を読み取って、それがデータの分析としてふさわしい内容であるか、考える場面を設けるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.5	69.3	65.7
	生命・地球	73.5	74.7	77.8
観点別	知識・技能	77.0	76.2	76.4
	思考・判断・表現	68.5	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「物のとけ方」の設問に関しては、水よう液という言葉の意味についての問題で、正答率82.4%となり市の平均を5.9ポイント上回った。また、「ろ過の正しい仕方を答える」設問に関しては、正答率が70.6%で市の平均を6.4ポイント上回った。</p> <p>○「ふりこのきまりで実験を計画する」の設問に関しては、正答率が62.7%で市の平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>●「電流のはたらき」で「コイルの巻き数が多い電磁石が強い磁界を生じる」の設問に関しては、正答率が82.4%で市の平均を7.7ポイント下回った。</p>	<p>・「電流のはたらき」の問題では、実験の結果をもとにコイルの巻き数と電磁石の強さの関係を記述できなかったことが分かる。今後、実験を行う際には、何を調べるのか意識を高め、実験の計画を立てる時間をしっかりと確保する。また、実験結果から適切な考察が加えられるように指導していく。</p>
生命・地球	<p>○「生物とかんきょう」の「生物間や自然と生物との間での気体のやりとり」を問う設問に関しては、正答率47.1%であり、市の平均を4.1ポイント上回った。</p> <p>○「月と太陽」の「三日月に見えるときの月と太陽・地球の位置関係」を問う設問に関しては、正答率70.6%で市の平均を5.6ポイント上回った。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」で「ヨウ素液の反応の結果からでんぷんができた葉を見分ける」の設問に関しては、正答率が78.4%で市の平均を7.3ポイント下回った。また、「葉のでんぷんをつくるはたらきの観点から植物の生育に必要なことを記述する。」の設問に関しては、正答率が35.3%で市の正答率を13.9ポイント下回った。</p>	<p>・実験の計画を立てる際に、何を調べるための実験かという課題をはっきりさせ、対照実験を行う意味をしっかりと考えられるようにさせる。</p> <p>・植物の生育に必要なことを説明する際に、「日光が当たったことのでんぷんができた」と解答できず、「日光が当たったこと」のみの記述になった児童が多かったことから、授業の中でポイントをしっかりと押さえながら正確に順序だてて説明できるように、繰り返し練習していく。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・めあての提示と振り返りの場の設定	・めあての提示により学習への意欲を喚起し、見通しをもてるようにする。また、めあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学びのよさに気付けるようにする。	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という設問の肯定回答率は、78.4%と市の平均とほぼ同程度であり、めあてを掲示することにより見通しをもって進んで取り組んでいたと言える。振り返りに対しては、内容に個人差が見られるので、今後も継続して指導していきたい。
・対話的な学びによる知識の定着	・少人数グループでの話し合いの場を設け、多角的なもの見方に気付けるようにし、思考を働かせたうえで理解を促すようにする。	・宇都宮市学習内容定着度調査の知識・技能の正答率は、国語は市の平均より2.9ポイント、社会では0.3ポイント下回った。算数では0.3ポイント、理科では0.8ポイント上回っており、基礎的な知識の定着は図れていると考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・今年度行われた全国学力テストや宇都宮市の学習内容定着度調査では、知識・技能の習得において、市の平均と本校の平均では大きな開きは見られなかった。一方で、とちぎっ子学習状況調査では基礎学力に関して課題が見られた。国語の漢字の読み書き、算数の四則計算の反復練習について、朝の学習や自主学習を通して行わせたい。
- ・朝の学習等を通して自主学習のやり方を指導し、家庭学習の充実を図る。